（2019年9月末まで赤れんが庁舎内にあった文書館展示室の解説です。）

北海道立文書館展示資料解説

御雇外国人

開拓使では広く欧米の技術を北海道の開拓に取り入れようとして、多くの外国人を招きました。御雇外国人はアメリカ合衆国農務長官であった開拓顧問兼御雇教師頭取ケプロンを中心とし、農業・牧畜、鉱山開発、測量・土木、医療の分野で活躍しました。北海道畜産の父といわれたE.ダン、地質・炭田・鉱山の調査を行ったB.S.ライマン、札幌農学校教頭で”Boys be ambitious”の言葉を残したとされるW.S.クラーク、幌内鉄道の敷設に当たったJ.U.クロフォードなどが有名です。彼らは技術を伝えただけではなく、北海道における教育や生活様式にもさまざまな影響を与えました。

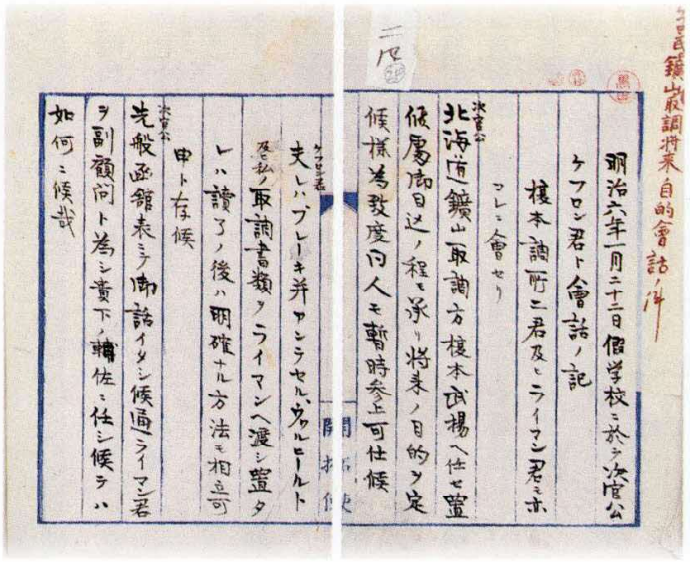
▲W.S.クラーク

▲E.ダン

▲開拓顧問ケプロン一行

左からクラーク（工業）、ケプロン、アンチセル（鉱山開発）、ワーフィールド（測量・土木）、エルドリッジ（医療）

（　）内はそれぞれ活躍した分野



明治六年一月二十二日開拓使学校ニ於テ次官公ケプロン君ト會話ノ記

榎本調所ニ君及ニライマン君ニ亦コレニ會セリ

次官公 北海道鑛山取調方榎本武揚ヘ任セ置候屬向目途ノ程ニ承リ將来ノ目的ヲ定候樣為致度内人モ暫時參上可仕候

ケプロン君 夫レハブレキ并アンチセル、ガルヒールト歴史ノ取調書類ヲライマンヘ渡シ置タレハ讀了ノ後ハ明確ナル方法モ相立可申ト存候

次官公 先般函館表ニテ御話イタシ候通ライマン君ヲ副顧問ト為シ貴下ノ輔佐ニ任シ候ヲハ如何ニ候哉

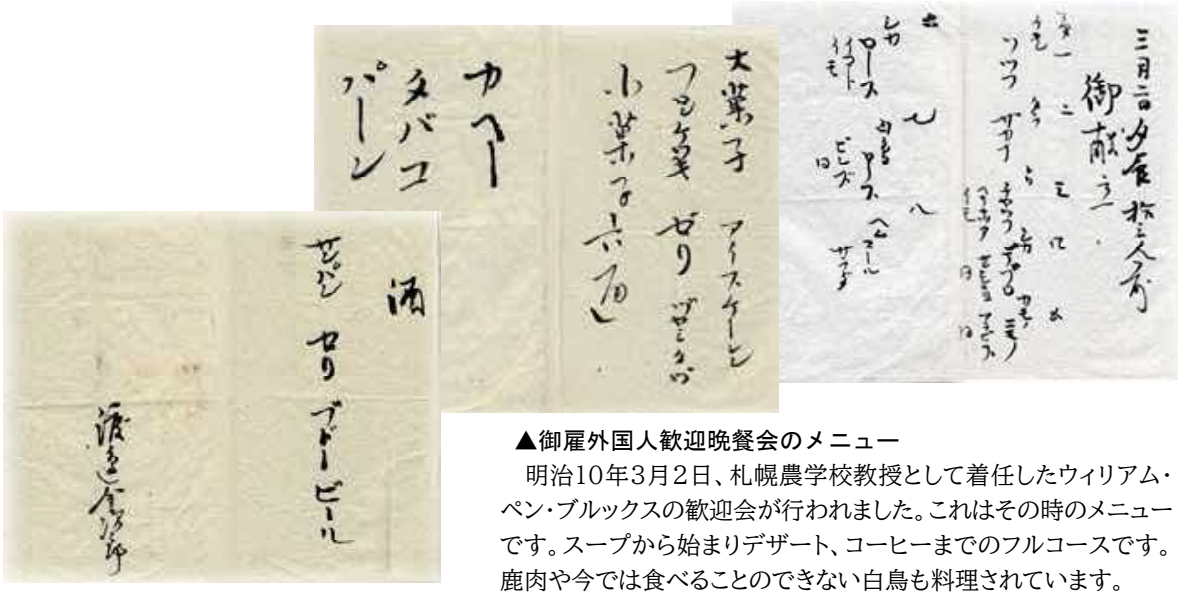
▲次官公（黒田清隆）ケフロン君ト会話ノ記

黒田開拓次官とケプロンとの鉱山調査についての会談記録。開拓使の担当者である榎本武揚、調所広丈、御雇外国人のB.S.ライマンが同席しました。（『開拓使公文録』簿書5742）

▲B.S.ライマンとその弟子達

ライマンが養成した地質調査技師によって幾春別・夕張炭田が発見されました。

（2019年9月末まで赤れんが庁舎内にあった文書館展示室の解説です。）



▲御雇外国人歓迎晩餐会のメニュー

明治10年3月2日、札幌農学校教授として着任したウィリアム・ペン・ブルックスの歓迎会が行われました。これはその時のメニューです。スープから始まりデザート、コーヒーまでのフルコースです。鹿肉や今では食べることのできない白鳥も料理されています。

メニューを作った渡辺金次郎はケプロン一行に従って横浜から来たコックで、札幌農学校寄宿舎や鮭・鱒・鹿の缶詰製造所での調理もしていました。（『取裁禄　明治十年一月以后十二年ニ至る』簿書3094）

▲ソッフ…スープ　ヘテホア…肉に添えるグリンピース　デプロ…デプロマート（洋酒蒸煮）　サンヒレニヨ…シャンピニオン　ビンズ…インゲン豆　ヘム…ハム　フロンケッキ…プラムケーキ　ゼリ…ゼリー　セリ…シェリー酒

▲御雇外国人に関する書類が綴られた文書類

建言・報告書・開拓使首脳との会談記録・契約書・待遇関係など数多くの文書が残されています。これらの文書は文書館の閲覧室でいつでもご覧いただけます。

▲開拓使顧問ホラシ・ケプロン報文

ケプロンを始めライマン、ワーフィールドなど御雇外国人の提言がまとめられています。

【参考文献】

鈴江英一　「『御覧閲済綴込』－札幌農学校賞格表など－」

（北海道総務部行政資料課『赤れんが』21号1972）

「開拓使外事課の簿書から」

（北海道総務部行政資料課『赤れんが』22号　1972）